

# 「救急に関する世論調査」

## 補足説明資料

平成29年7月実施  
消防庁救急企画室

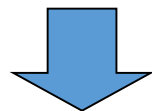


総務省消防庁  
Fire and Disaster Management Agency

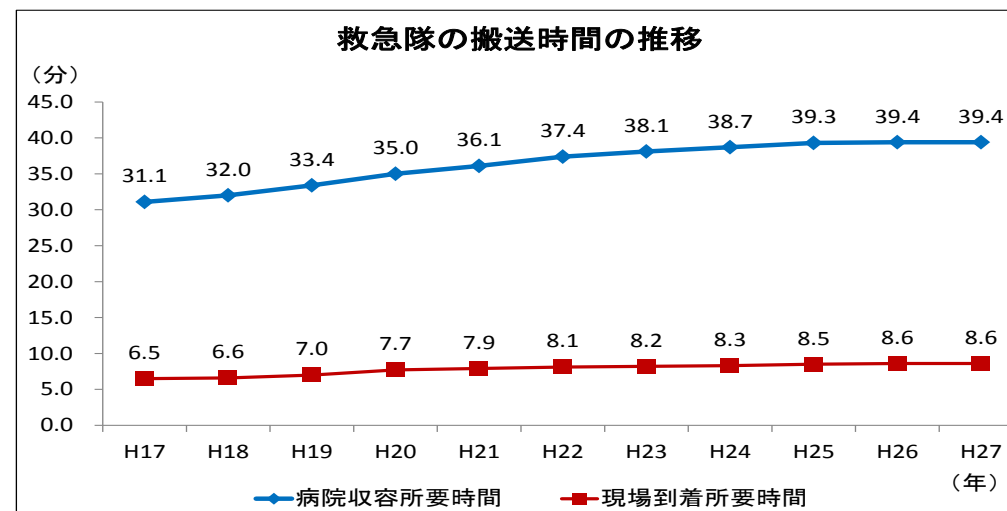
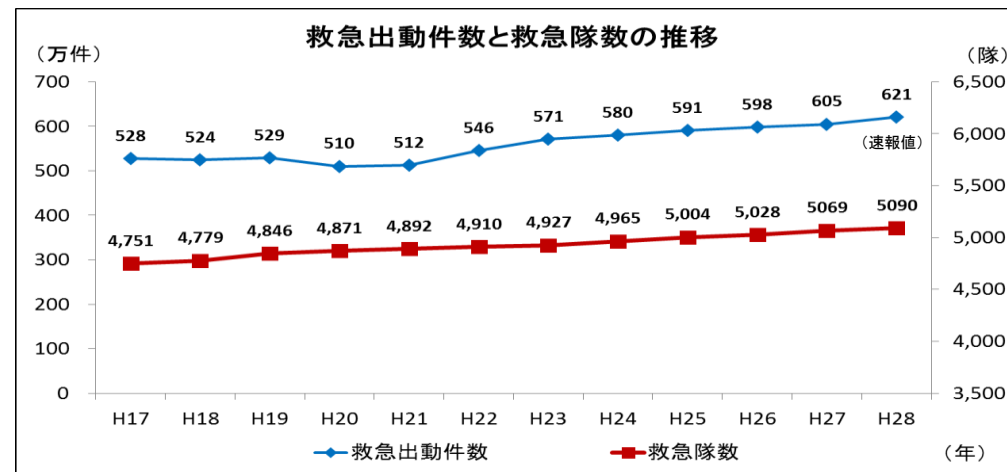
# 救急需要の増大

- 救急出動件数の増加と比較して、救急隊数は増加していない
- 病院収容時間・現場到着時間ともに延伸

- 平成28年中の救急出動件数(速報値)は約621万件  
10年前と比較して約18.6%増加
- 救急隊数は、平成28年4月1日現在5,090隊  
10年前と比較して約6.5%の増加

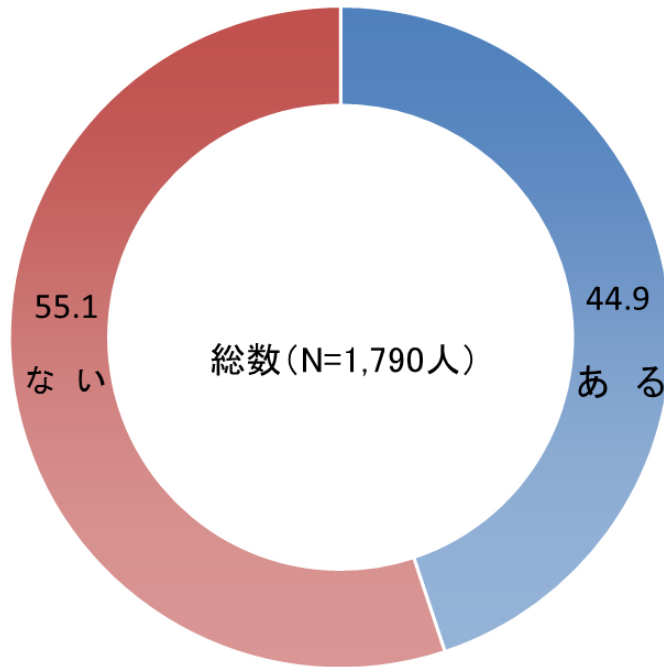


- 平成27年中の病院収容所要時間は39.4分  
10年間で8.3分延伸している。
- 平成27年中の現場到着所要時間は8.6分  
10年間で2.1分延伸している。

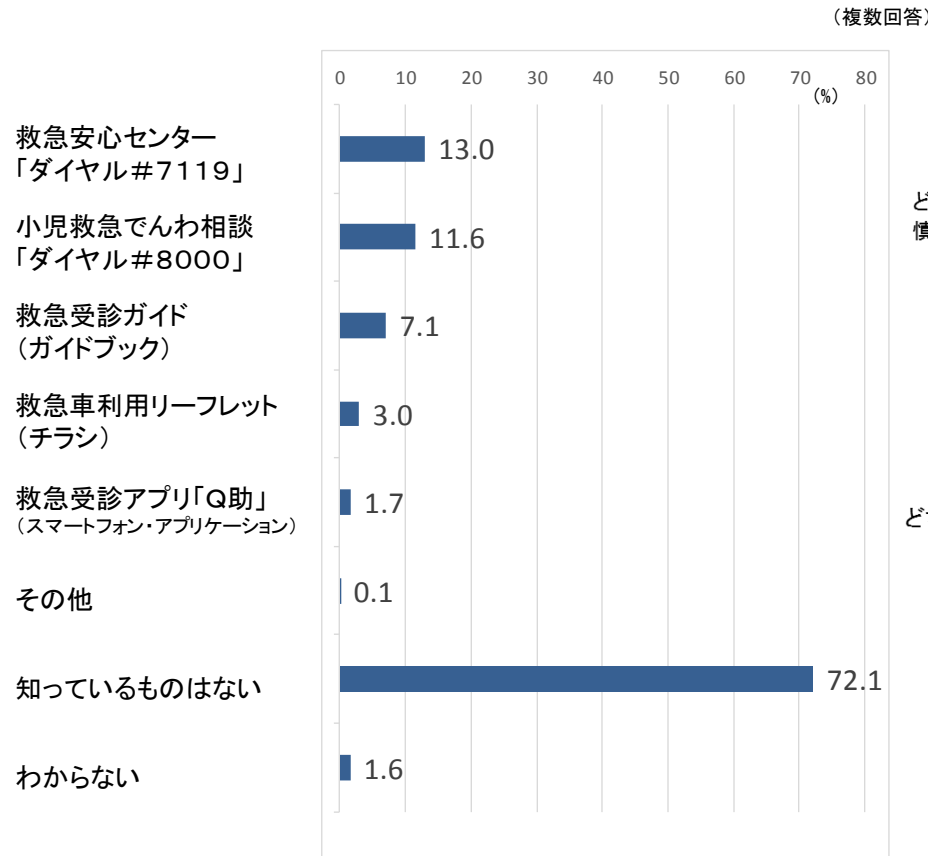


- 救急通報をしたことがあると回答したのは、全体の約4割
- 緊急度判定を支援する自己判定ツール等の認知度は、約7割が知っているものはないと回答
- 緊急度判定の取り組みは、全体の約7割が進めるべきだと思うと回答

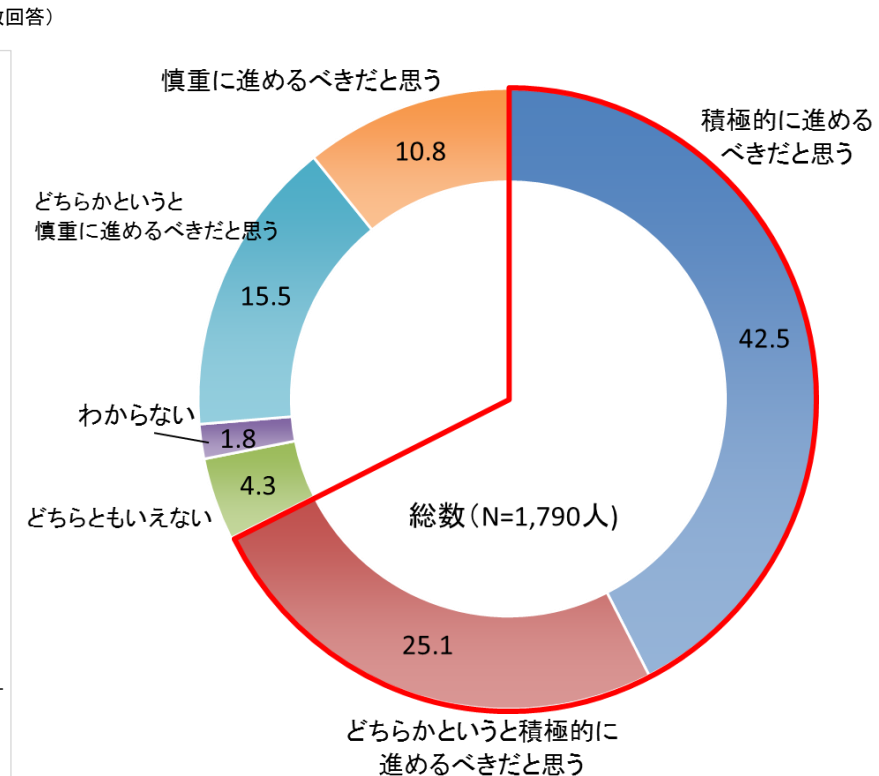
### 救急通報の有無



### 自己判定ツールの認知度

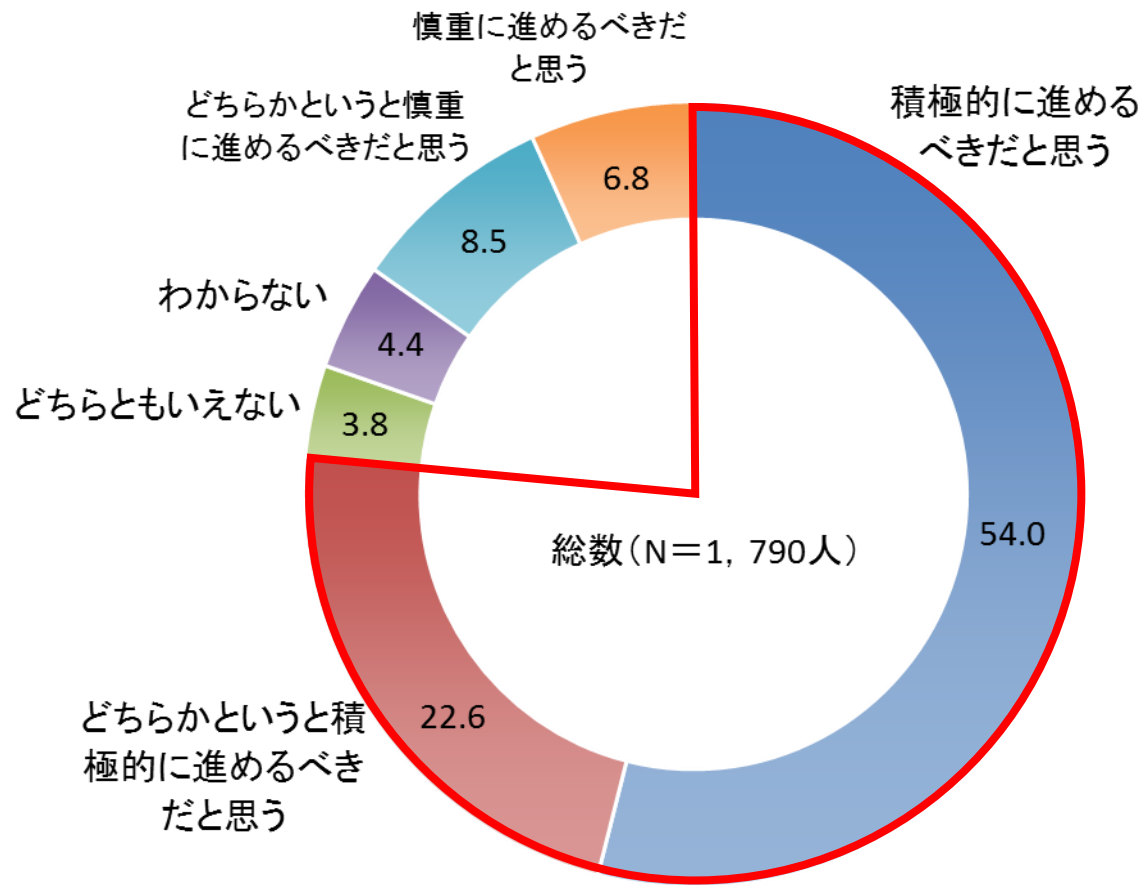


### 緊急度判定の取り組み推進への考え方

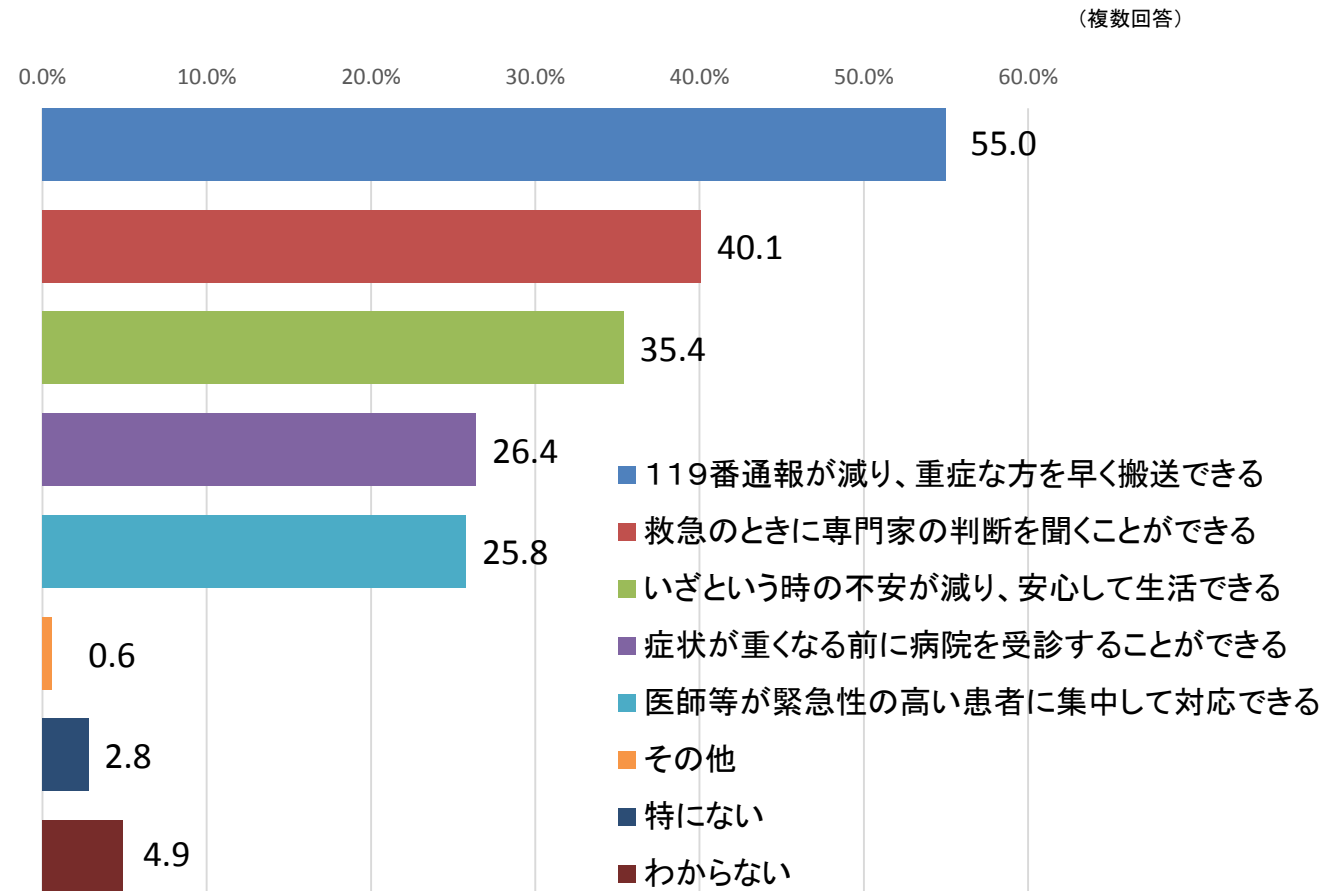


○救急安心センター(#7119)について、7割以上の方が、積極的に進めるべきと回答

## 救急安心センター(#7119)推進への考え方



## 救急安心センター(#7119)のメリット



## 概要

住民が急な病気やけがをしたときに、救急車を呼んだほうがいいのか、今すぐ病院に行ったほうがいいのかなど迷った際の相談窓口として、専門家から電話でアドバイスを受けることができる。

相談を通じて、病気やけがの症状を把握した上で、以下をアドバイス。

### ○救急相談

例) 緊急性の有無<sup>※1</sup>、応急手当の方法、受診手段<sup>※2</sup>

### ○適切な医療機関を案内<sup>※3</sup>

※1 直ちに医療機関を受診すべきか、2時間以内に受診すべきか、24時間以内か、明日でも良いか等。

※2 救急車を要請するのか、自分で医療機関に行くのか、民間搬送事業者等を案内するのか。

※3 適切な診療科目及び医療機関等の案内を行う。

## 【イメージ図】

## #7119(救急安心センター事業)

住民



- 病院に行った方がいいの？
- 救急車を呼んだ方がいいの？
- 応急手当はどうしたらいいの？

専用回線  
(#7119)

- 医師・看護師・相談員が相談に対応
- 病気やけがの症状を把握
- 緊急性、応急手当の方法、受診手段、適切な医療機関などについて助言
- 相談内容に緊急性があった場合、直ちに救急車を出動させる体制を構築
- 原則、24時間365日体制



救急電話相談  
医療機関案内

緊急性の高い症状

迅速な救急車の出動



緊急性の低い症状

医療機関の案内



## 【実施団体】

(平成29年9月時点)

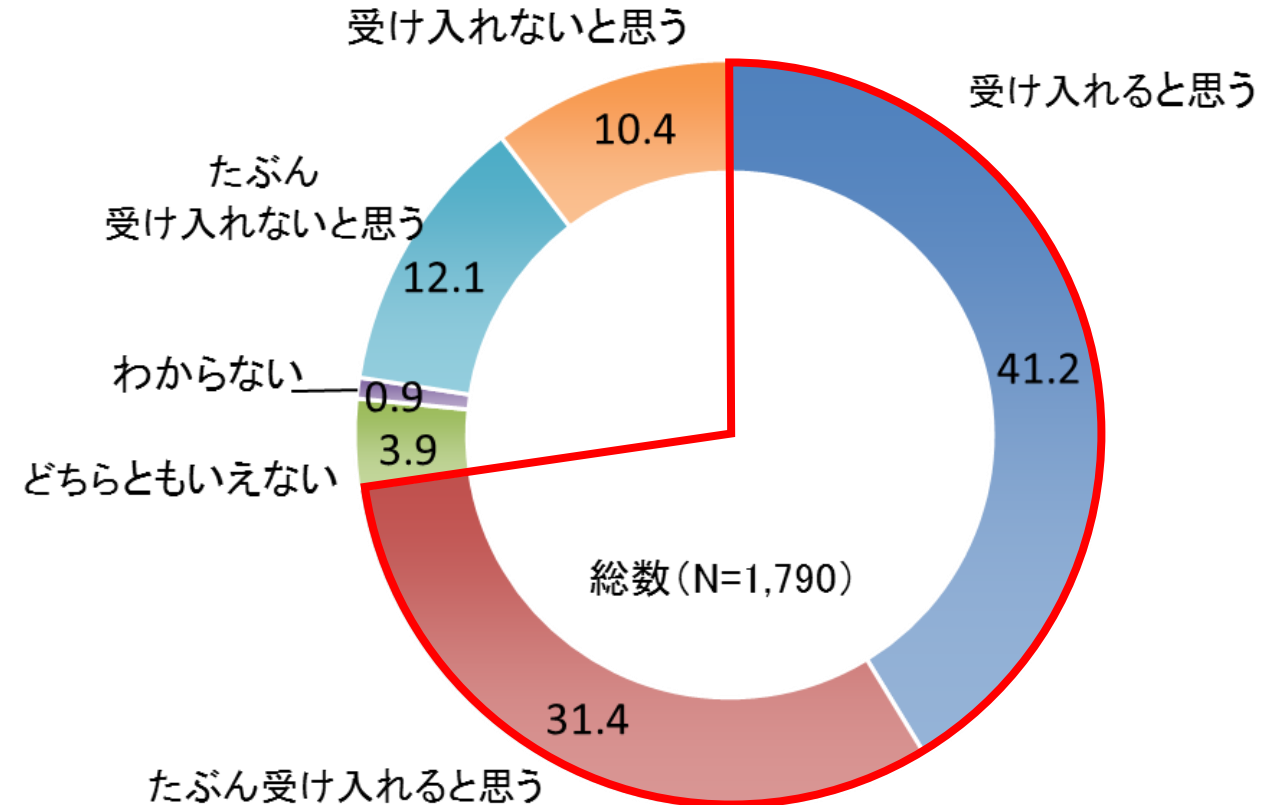
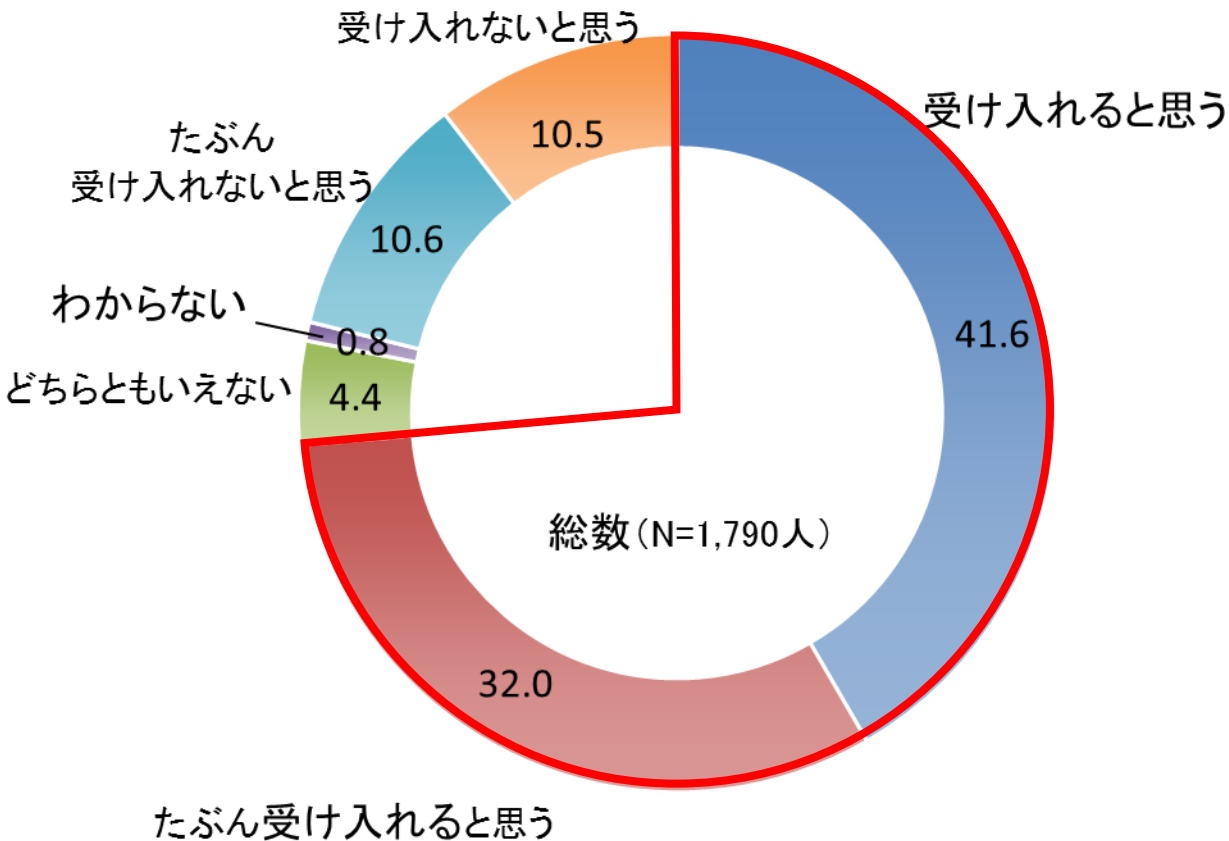
- 都道府県全域
  - ・東京都
  - ・大阪府
  - ・奈良県
  - ・福岡県
- 都道府県の一部で実施
  - ・札幌市周辺
  - ・横浜市
  - ・田辺市周辺

# 119番通報及び救急現場の緊急度判定体系について

- 119番窓口による緊急性の判断について、約7割が受け入れると回答
- 救急隊員による緊急性の判断について、約7割が受け入れると回答

119番窓口による緊急性判断を受け入れるか

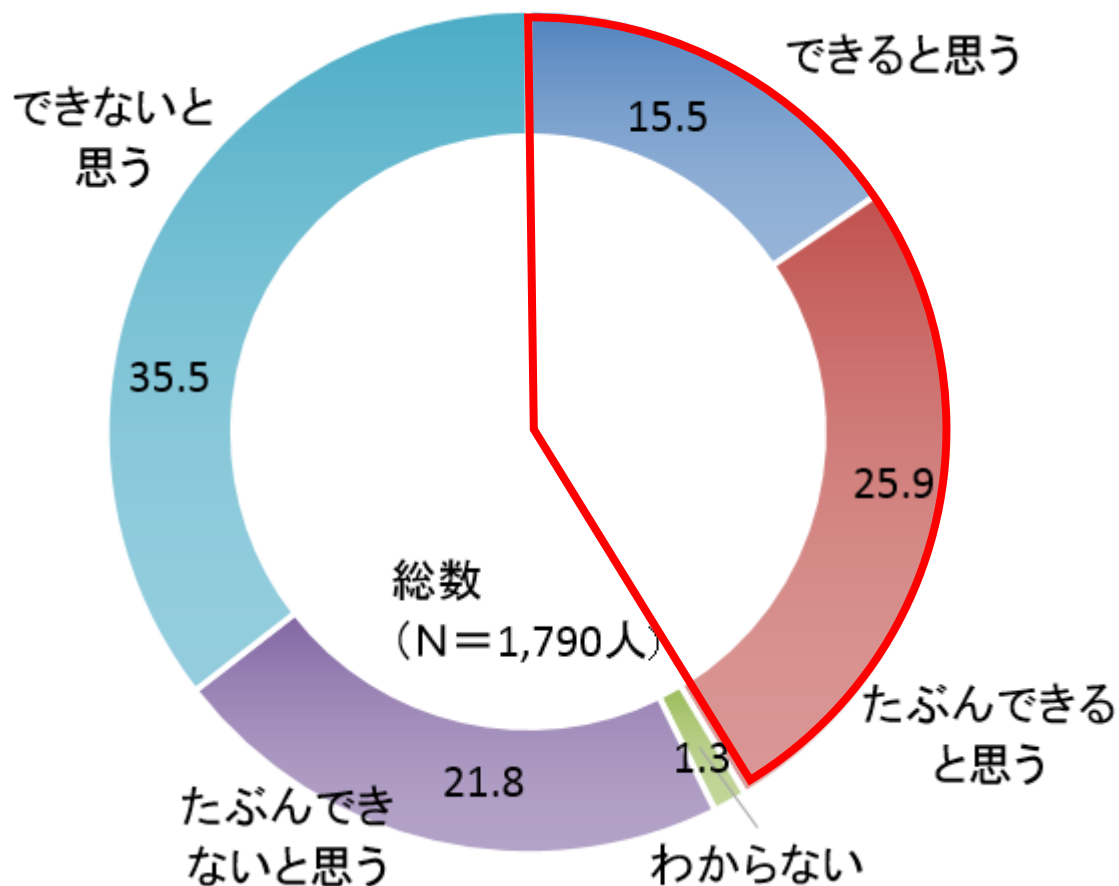
救急隊による緊急性の判断を受け入れるか



○応急手当ができると思う割合は、全体の約4割

○応急手当について、やり方、失敗による責任などについての不安があると回答

## 応急手当ができると思うか



## 応急手当で不安に思うこと

(複数回答)

